

第 1 編 共通編

第1章 総論

第1節 計画の目的

近年、大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会を見直し、物質循環を確保して、天然資源の保全や環境負荷を低減する「循環型社会」の実現が求められています。国においても平成25年度に第三次循環型社会形成推進基本計画を閣議決定し、更なる資源循環に向け3R（リデュース・リユース・リサイクル）を推進しています。

熱海市（以下「本市」とします。）は、日本有数の国際観光温泉文化都市であり、首都東京より100km圏内という位置的条件により、多くの観光客が訪れるため、ごみ及び生活排水は観光客由来のものも多く見られます。

こうした状況の中、本市においても、ごみ処理の有料化をはじめ様々な取組を実施し、ごみの減量、資源化を推進してきました。

したがって、本計画は、本市のごみ処理を取り巻く状況が変化したことを踏まえ、環境への負荷の少ない循環型社会の実現を目指し、本市におけるごみの発生抑制、再生利用、適正処理及び生活排水処理の推進に向けた今後の基本的な方針を長期的かつ総合的視野に立って定めることを目的として、平成20年3月策定の『一般廃棄物処理基本計画』を改定します。

第2節 計画の性格

一般廃棄物処理基本計画は、自治体が長期的、総合的視点に立って、計画的に一般廃棄物の処理推進を図るための基本方針となるもので、一般廃棄物の排出抑制及び発生から最終処分に至るまでの、適正な処理を進めるために必要な基本的事項を定めるものです。

『廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和45年法律第137号）』の第6条第1項の規定により定めるべき事項は、以下のとおりです。

- ① 一般廃棄物の発生量及び処理量の見込み
- ② 一般廃棄物の排出抑制のための方策に関する事項
- ③ 分別して収集するものとした一般廃棄物の種類及び分別の区分
- ④ 一般廃棄物の適正な処理及びこれを実施する者に関する基本的事項
- ⑤ 一般廃棄物の処理施設の整備に関する事項
- ⑥ その他一般廃棄物の処理に関し必要な事項

一般廃棄物処理基本計画の位置付けは、図 1-1-1 に示すとおりです。

一般廃棄物処理基本計画は、廃棄物の資源化、収集・運搬、中間処理、最終処分までの今後 10～15 年先までの方向を定める計画です。

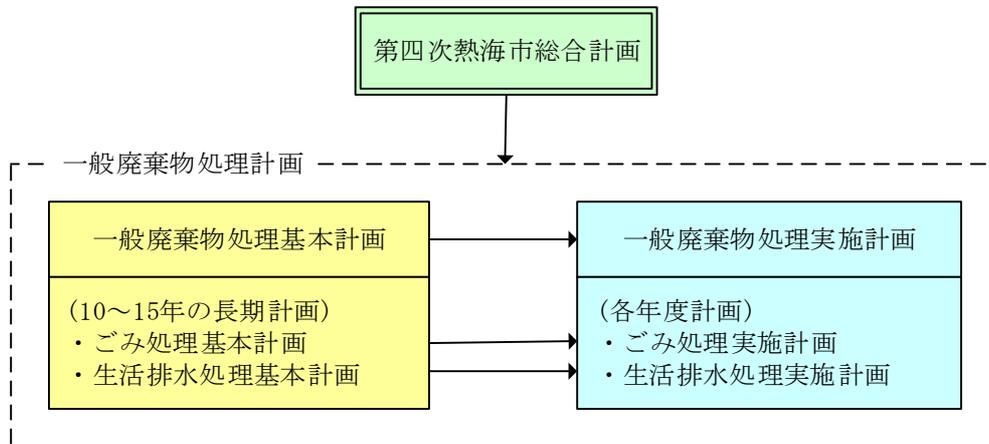


図 1-1-1 一般廃棄物処理基本計画の位置づけ

第 3 節 計画の期間

本計画は平成 19 年度に平成 20 年度を初年度として策定した計画を改定するものです。改定にあたり新たに平成 27 年度を初年度とし、目標年度を平成 41 年度まで延長した 15 年間を計画期間とします。

なお、おおむね 5 年ごと、もしくは計画の前提となる諸条件に大きな変動があった場合に見直しを行います。

第 4 節 計画の範囲

本計画の対象範囲は、本市において発生する廃棄物のうち、産業廃棄物を除いた一般廃棄物（ごみ及び生活排水）とします。

第2章 地域の概要

第1節 地域の概要

1-1 位置

本市は、静岡県の最東部、伊豆半島東岸基部に位置しています。東は相模灘に面し、三方を山に囲まれ、北東は2級河川千歳川を県境として神奈川県に接しています。東西に約7.5km、南北に13.9kmの帯状の形状をしています。

また、南東約10kmの海上には、周囲4kmの初島があります。

市域の総面積は61.61km²です。

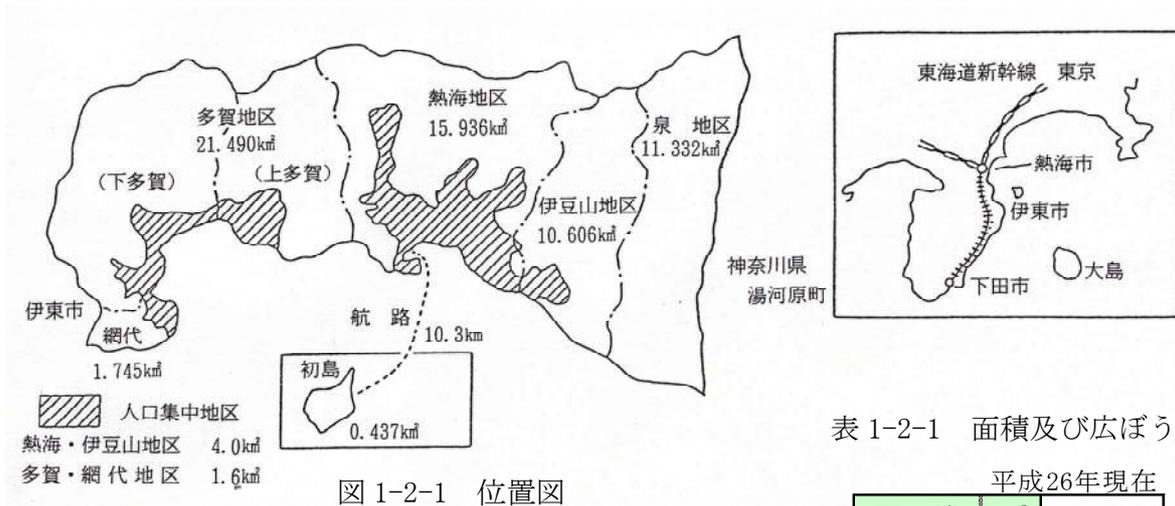


図 1-2-1 位置図

表 1-2-1 面積及び広ぼう

		平成26年現在	
面	積	km ²	61.61
広 ば う	東西	km	7.52
	南北	km	13.90

資料：総務課

1-2 沿革

本市の沿革は、表 1-2-2 に示すとおりです。明治24年6月に町制を布き熱海町となり、その後、多賀村を合併して市制に移行、昭和32年4月に網代町を合併して現在に至っています。

表 1-2-2 市の沿革

年 月 日	沿 革
明治22年 3月 1日	熱海村、伊豆山村、泉村、初島村を合併し熱海村となる。
明治24年 6月11日	町制を布き、熱海町となる。
昭和12年 4月10日	多賀村と合併、熱海市制施行
昭和32年 4月 1日	田方郡網代町と合併

注) 埋立等は除く

資料：総務課

第2節 自然条件

2-1 地象

市域は、地形のほとんどが火山活動により形成され、起伏に富み、急峻な地形のため平坦地が少ない地形となっています。西部は箱根から天城山へ続く山地となっており、尾根部を市境としています。この急峻な山地が東部の相模灘に向かって迫っており、平地は河岸付近から谷に向かってヒトデ状に広がる僅かなものとなっています。市街地はこの僅かな平坦地に広がっています。

また、緑が豊かで、温泉に恵まれています。海岸線は急な崖地が連なっています。

2-2 水象

市内を流れる主な河川は、表 1-2-3 に示す 11 河川があります。距離が短く、流量の少ない河川が多くなっています。

表 1-2-3 主な河川

2級河川	千歳川、逢初川、糸川、初川、和田川、大川、宮川、仲川、鍛冶川、水神川
準用河川	鳴沢川
普通河川	藤沢川

河川の水質測定結果は表 1-2-4(1)に示すとおりです。環境基準の類型指定はありませんが、環境基準河川C類型（表 3-1-15(2)参照）の達成を当面の目標としており、測定しているどの河川もほぼ満足しています。

海域の水質測定結果は表 1-2-4(2)に示すとおりです。海域は、伊豆沿岸海域A類型（表 3-1-15(3)参照）の環境基準が指定されており、測定しているどの海域も満足しています。

表 1-2-4(1) 河川別水質測定結果 [平成 25 年]

項目		測定箇所		逢初川			藤沢川	糸川			
		千歳川	鳴沢川	千歳橋付近	ヒノチライ橋付近	逢初橋付近	消防第4分団下	芹沢新聞店付近	来宮神社付近	新柳橋付近	
流量		m ³ /分	85.5	3.4	6.3			0.7	5.6		
一般項目	水素イオン濃度(pH)	—	7.5	7.5	7.4	7.5	7.5	7.3	7.3	7.3	
	溶存酸素(DO)	mg/l	9.9	9.3	9.3	9.3	9.4	8.6	11.8	11.7	
	浮遊物質(SS)	mg/l	2	4	4	4	2	6.5	5.5	6.5	
	化学的酸素要求量(COD)	mg/l	1.3	2.7	1.6	2.5	1.1	2.1	1.8	1.8	
	生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/l	0.9	1.9	2.0	1.9	1.2	1.2	1.1	1.9	
	大腸菌群数	MPN/100ml	10,450	109,500	56,000	36,500	28,500	28,500	18,500	51,500	
指定項目	全窒素(T-N)	mg/l	0.71	1.56	1.32	1.38	0.87	1.67	0.91	0.73	
	全燐(T-P)	mg/l	0.031	0.223	0.086	0.093	0.064	0.039	0.043	0.043	
	陰イオン界面活性剤	mg/l	0.01未満	0.02	0.01	0.02	0.01未満	0.01	0.01未満	0.01未満	
健康項目	全炭素(TOC)	mg/l	1未満	2	1	1未満	1未満	1	2	1	
	鉛(Pb)	mg/l	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	
	砒素(As)	mg/l	0.007	0.011	0.015	0.010	0.005未満	0.037	0.005未満	0.005未満	
	総水銀(T-Hg)	mg/l	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	
六価クロム(Cr6 ⁺)	mg/l	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満		
項目		測定箇所		初川				和田川		大川	
		糸川	瑞穂橋付近	水口橋付近	梅園内	大石原橋付近	赤宮橋付近	臨港橋付近	潮路橋付近		
流量		m ³ /分	5.6	62.3				15.2		15.5	
一般項目	水素イオン濃度(pH)	—	7.3	7.5	7.6	7.6	7.7	7.7	7.6	7.5	
	溶存酸素(DO)	mg/l	11.1	9.6	9.7	10.1	10.7	10.0	10.5	10.0	
	浮遊物質(SS)	mg/l	5.5	3	3	6	2	2	2	4.5	
	化学的酸素要求量(COD)	mg/l	2.1	1.4	1.6	1.9	1.3	1.3	1.4	2.3	
	生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/l	1.7	1.3	1.9	1.2	0.7	1.0	1.4	1.5	
	大腸菌群数	MPN/100ml	51,500	132,000	77,000	25,650	2,800	26,150	36,500	77,000	
指定項目	全窒素(T-N)	mg/l	0.61	1.03	1.03	1.27	1.19	1.27	1.31	1.56	
	全燐(T-P)	mg/l	0.046	0.036	0.047	0.036	0.023	0.023	0.019	0.045	
	陰イオン界面活性剤	mg/l	0.01	0.02	0.01	0.01未満	0.01未満	0.03	0.02	0.03	
健康項目	全炭素(TOC)	mg/l	1	1未満	1未満	1	1未満	1未満	1未満	1未満	
	鉛(Pb)	mg/l	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	
	砒素(As)	mg/l	0.006	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.007	0.005未満	
	総水銀(T-Hg)	mg/l	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	
六価クロム(Cr6 ⁺)	mg/l	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満		
項目		測定箇所		宮川		仲川		鍛冶川		水神川	
		戸又港側溝出口付近	宮川橋付近	仲川橋付近	鍛冶川橋付近	潮騒橋付近	網代栄町排水溝	網代町場排水溝			
流量		m ³ /分	0.3	20.2	5.4	3.9	5.1	0.1	0.2		
一般項目	水素イオン濃度(pH)	—	7.3	7.5	7.4	7.7	7.1	6.0	6.2		
	溶存酸素(DO)	mg/l	8.4	11.9	9.9	10.8	10.0	1.7	0.5未満		
	浮遊物質(SS)	mg/l	4	3.5	2.5	1	8	43	245.5		
	化学的酸素要求量(COD)	mg/l	4.2	1.5	2.2	1.8	4.0	121	487.3		
	生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/l	4.9	0.7	1.9	1.8	3.1	251.9	499.1		
	大腸菌群数	MPN/100ml	251,500	36,500	64,000	79,000	89,500	18,500,000	1,595,000		
指定項目	全窒素(T-N)	mg/l	1.39	0.98	1.62	1.53	2.47	13.1	6.82		
	全燐(T-P)	mg/l	0.088	0.044	0.065	0.051	0.100	3.20	0.211		
	陰イオン界面活性剤	mg/l	0.15	0.01未満	0.04	0.07	0.08	0.48	1.76		
健康項目	全炭素(TOC)	mg/l	2	1	1	1未満	2	191	10		
	鉛(Pb)	mg/l	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.008	0.008		
	砒素(As)	mg/l	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.009	0.007		
	総水銀(T-Hg)	mg/l	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満		
六価クロム(Cr6 ⁺)	mg/l	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満			

第2章 地域の概要

表 1-2-4(2) 海域水質測定結果 [平成 25 年]

項目	測定箇所	大黒崎沖	鳴沢川沖	初川沖	大川沖	水神川沖	東海岸沖	長浜海水浴場沖	中野海水浴場沖	
一般項目	水素イオン濃度 (pH)	—	8.1	8.2	8.2	8.2	8.2	8.1	8.1	8.2
	溶存酸素 (DO)	mg/l	7.5	6.8	7.1	7.5	7.7	6.8	8.5	7.6
	浮遊物質量 (SS)	mg/l	7	8	5	5	6	3	3	2
	化学的酸素要求量 (COD)	mg/l	1.8	1.8	1.8	2.0	2.2	1.9	2.0	2.2
	大腸菌群数	MPN/100ml	2,400	1,300	2,400	1,300	240	330	240	330
指定項目	全窒素 (T-N)	mg/l	0.089	0.71	0.71	0.71	0.227	0.155	0.069	0.061
	全磷 (T-P)	mg/l	0.004	0.031	0.031	0.031	0.227	0.023	0.013	0.013
	陰イオン界面活性剤	mg/l	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.03	0.01
	全炭素 (TOC)	mg/l	1 未満	22	23	2				
健康項目	鉛 (Pb)	mg/l	0.005 未満							
	砒素 (As)	mg/l	0.005 未満	0.007	0.007	0.007	0.007	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満
	総水銀 (T-Hg)	mg/l	0.0005未満							
	六価クロム (Cr6 ⁺)	mg/l	0.01 未満							

資料：協働環境課

2-3 気象

過去5年間（平成21年～25年）の平均気温は16.3℃であり、一年中温暖な気候となっており、冬は温暖で、夏は清涼で良好な気候となっています。降水量は、過去5年平均で2,024.7mmとなっており、比較的降水量の多い地域です。

表 1-2-5 平均気温と降水量

年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	気温-平均 降水量-計
平均 気温 (℃)	H 21	7.5	8.5	10.1	15.1	19.3	21.6	25.1	25.6	22.1	18.3	14.0	9.7	16.4
	H 22	7.4	7.2	9.5	12.5	18.1	22.4	26.9	28.0	24.5	18.9	14.0	10.3	16.6
	H 23	5.6	8.1	(8.5)	14.4	18.0	22.1	26.1	26.5	23.9	18.8	15.2	8.3	16.3
	H 24	5.8	6.0	9.7	13.7	18.5	20.4	25.3	26.9	24.5	19.1	13.1	8.1	15.9
	H 25	6.0	6.5	12.4	14.8	18.4	21.5	25.7	27.5	23.8	19.8	13.2	8.8	16.5
	平均	6.5	7.3	10.0	14.1	18.5	21.6	25.8	26.9	23.8	19.0	13.9	9.0	16.3
降 水 量 (mm)	H 21	156.5	93.5	123.5	110.0	169.0	242.5	253.5	205.0	60.0	254.5	216.0	84.0	1,968.0
	H 22	24.5	168.5	299.5	401.5	141.5	143.5	200.0	73.0	370.5	256.0	74.0	178.0	2,330.5
	H 23	2.0	136.0	115.0	78.5	382.0	164.5	177.5	185.0	436.5	166.0	120.5	68.5	2,032.0
	H 24	49.5	177.5	245.0	188.5	321.5	293.0	201.5	27.5	232.0	129.0	191.5	134.0	2,190.5
	H 25	61.5	106.5	42.0	240.5	61.5	196.5	80.0	101.0	273.5	328.5	63.0	48.0	1,602.5
	平均	58.8	136.4	165.0	203.8	215.1	208.0	182.5	118.3	274.5	226.8	133.0	102.5	2,024.7

注) ()は欠測を含む数値を表す。

資料：網代特別地域気象観測所

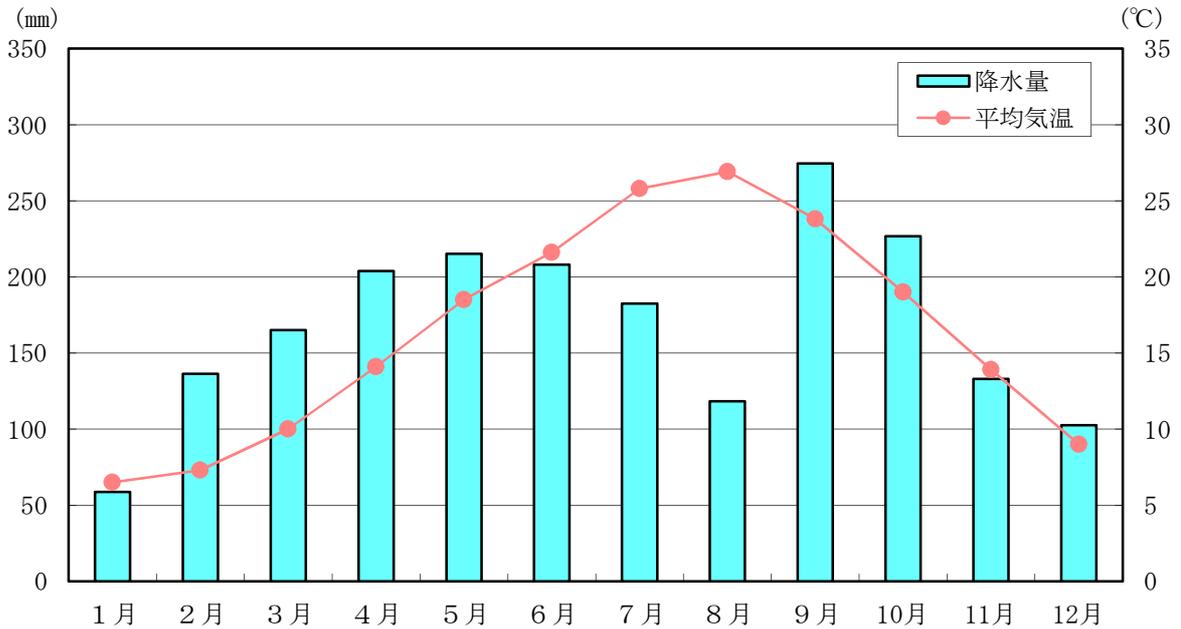


図 1-2-2 平均気温と降水量 [過去5年の平均]

第3節 社会条件

3-1 人口

人口・世帯数は、表 1-2-6 に示すとおりです。人口は、減少傾向を示しており（図 1-2-3 参照）、平成 25 年度で 38,808 人となっています。過去 10 年間で 3,538 人、8.4%の減少となっています。世帯数は、平成 25 年度で 21,358 世帯となっています。

表 1-2-6 人口・世帯数

年度		各年度末人口										
		H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	
総人口	住民基本台帳人口	人	41,904	41,720	41,508	41,101	40,592	40,281	39,828	39,498	38,941	38,471
	外国人登録人口	人	442	391	319	322	347	371	386	366	346	337
	計	人	42,346	42,111	41,827	41,423	40,939	40,652	40,214	39,864	39,287	38,808
世帯数	世帯	21,194	21,319	21,429	21,482	21,410	21,420	21,322	21,357	21,469	21,358	

注) 世帯数 H16～H23は、外国人登録人口の世帯が含まれていません。

資料：市民生活課

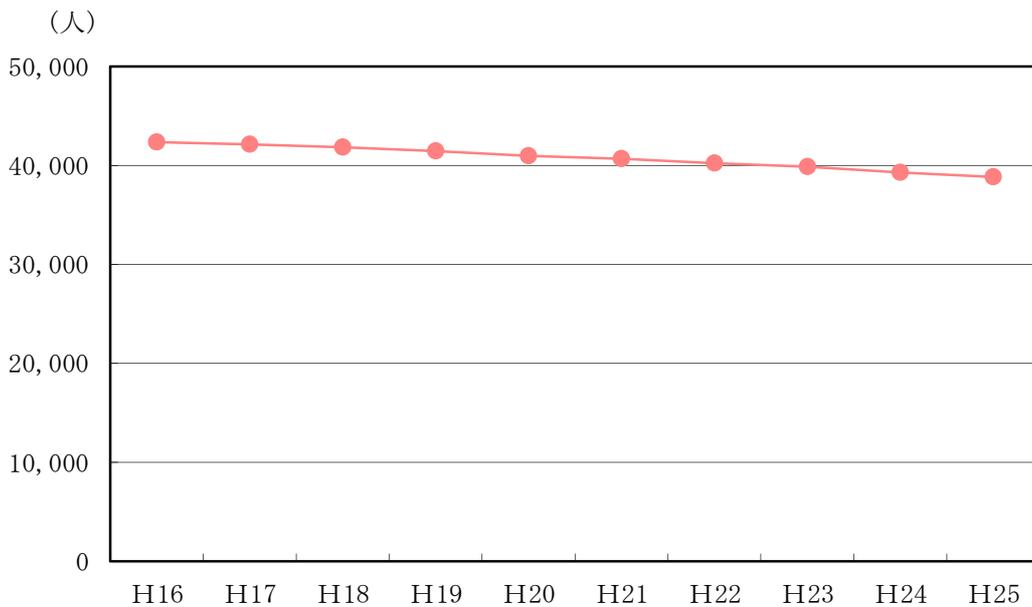


図 1-2-3 総人口の推移

年齢別・男女別人口は、表 1-2-7 に示すとおりです。老年化指数（＝65 歳以上/0～14 歳）が 477.5 と高い数値を示しており、高齢化の進行が見られます。

表 1-2-7 年齢別・男女別人口[平成 22 年]
(単位：人)

年 齢	総数	男	女
総 数	39,611	17,718	21,893
0～4歳	918	460	458
5～9歳	1,010	512	498
10～14歳	1,276	651	625
15～19歳	1,407	684	723
20～24歳	1,307	574	733
25～29歳	1,331	676	655
30～34歳	1,542	774	768
35～39歳	2,173	1,088	1,085
40～44歳	2,177	1,073	1,104
45～49歳	2,108	1,045	1,063
50～54歳	2,091	1,004	1,087
55～59歳	2,786	1,341	1,445
60～64歳	4,181	1,901	2,280
65～69歳	4,183	1,833	2,350
70～74歳	3,571	1,497	2,074
75～79歳	3,066	1,197	1,869
80～84歳	2,401	860	1,541
85～89歳	1,373	386	987
90～94歳	537	123	414
95～99歳	138	31	107
100歳以上	29	2	27
年齢不詳	6	6	—
年少人口指数	15.2	16.0	14.4
老年人口指数	72.5	58.4	85.6
従属人口指数	87.7	74.3	100.1
老年化指数	477.5	365.3	592.6

資料：国勢調査

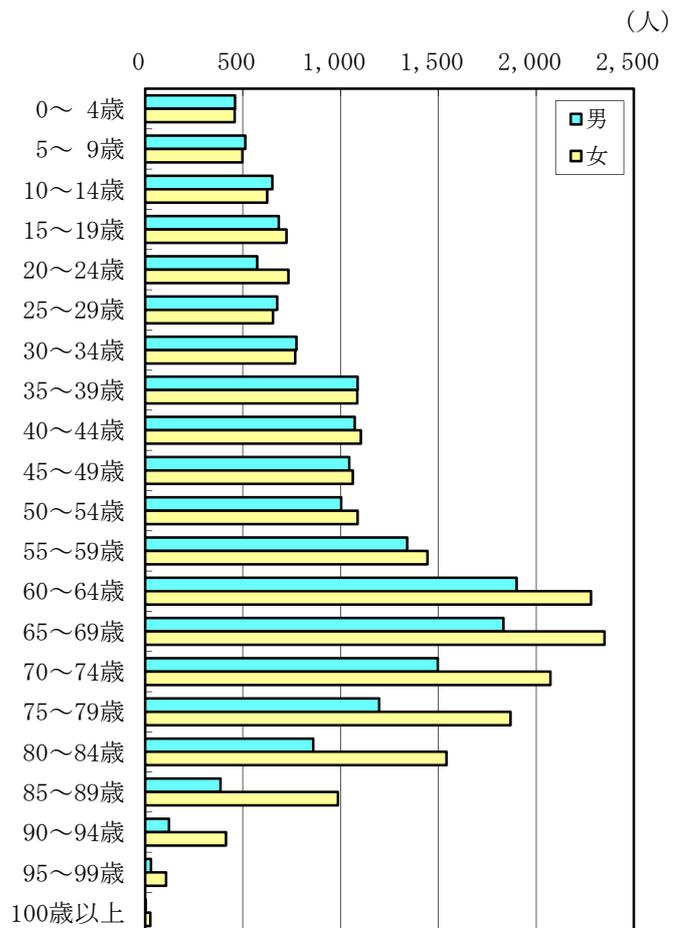


図 1-2-4 年齢別・男女別人口

3-2 産業

本市の主要産業は、観光を主とするサービス業です。

事業所数及び従業者数の総数は、表 1-2-8 に示すとおりで、事業所数、従業者数、ともに、平成 21 年から平成 24 年にかけて減少しています。

平成 24 年において、事業所数の総数は 2,857 事業所となっており、内訳については、宿泊業、飲食サービス業が 709 事業所 (24.8%) と最も多く、次いで卸売業、小売業 654 事業所 (22.9%)、不動産業、物品賃貸業 321 事業所 (11.2%) となっています (図 1-2-5 参照)。従業者数の総数は、19,139 人となっており、内訳は、宿泊業、飲食サービス業 5,937 人 (31.0%) と最も多く、次いで売業、小売業 3,303 人 (17.3%)、医療、福祉 1,944 人 (10.2%) となっています。

表 1-2-8 事業所数及び従業者数

H18は10月1日、H21は7月1日、H24は2月1日現在

年		総数	農業	林業	漁業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業 郵便業	卸売業 小売業
H18	事業所数	事業所 3,223	4	1	4	295	75	11	17	34	753
	従業者数	人 22,033	16	5	76	1,639	443	285	105	692	3,773
H21	事業所数	事業所 3,238	5		1	323	85	6	24	41	723
	従業者数	人 23,430	20		26	1,670	557	107	201	1,115	4,005
H24	事業所数	事業所 2,857	5			298	92	1	24	37	654
	従業者数	人 19,139	60			1,361	561	48	184	858	3,303

年		金融業 保険業	不動産業 物品賃貸業	学術研究、専門・技術サービス業	宿泊業、飲食サービス業	生活関連サービス業、娯楽業	教育、学習支援業	医療、福祉	複合サービス業	サービス業	公務
H18	事業所数	事業所 26	318	—	834	—	90	140	21	575	25
	従業者数	人 226	1,068	—	6,388	—	865	2,197	217	3,393	645
H21	事業所数	事業所 25	362	92	807	286	88	142	14	189	25
	従業者数	人 213	1,294	469	6,894	1,115	706	2,463	125	1,774	676
H24	事業所数	事業所 22	321	67	709	261	47	129	14	176	
	従業者数	人 168	1,106	322	5,937	1,145	293	1,944	117	1,732	

資料：H18は事業所・企業統計調査、H21及びH24は経済センサス

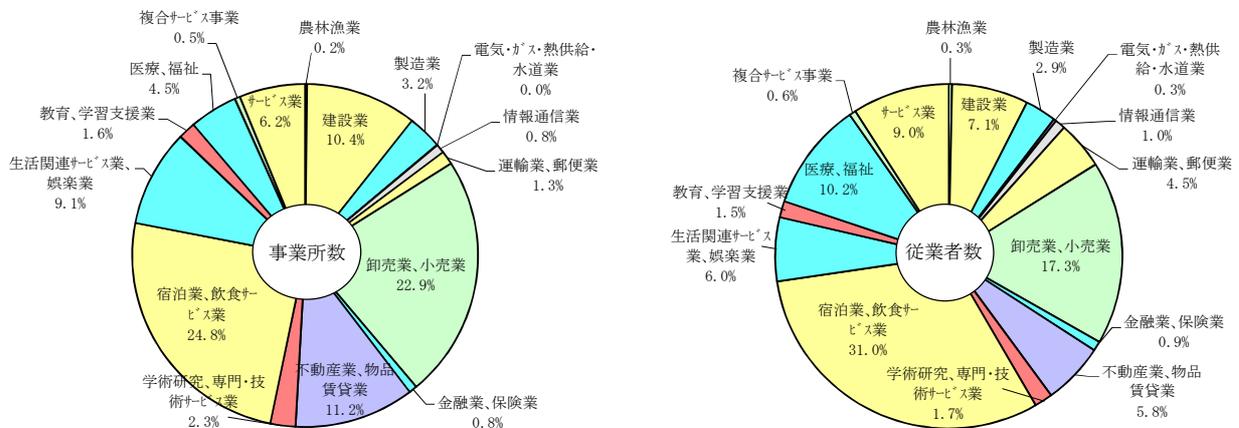


図 1-2-5 産業別事業所数及び従業者数 [平成 24 年]

(1) 農業

専・兼業別農家数は、表 1-2-9 に示すとおりです。

農地面積は表 1-2-10 に示すとおりで、そのほとんどが樹園地です。

表 1-2-9 専・兼業別農家数

各年2月1日現在(単位：戸)

年	総数	専業農家数	兼業農家数		
			第1種兼業	第2種兼業	
H 12	404	21	383	10	373
H 17	119	18	101	6	95
H 22	108	24	84	8	76

注) H17以降は、農業経営体販売農家総数結果による。

資料：農林業センサス

表 1-2-10 農地面積

各年2月1日現在(単位：ha)

年	総面積	田	普通畑	樹園地	牧草地
H 21	391	—	88	303	—
H 22	390	—	88	302	—
H 23	389	—	87	302	—
H 24	389	—	87	302	—
H 25	388	—	87	301	—

資料：観光経済課

(2) 工業

事業所数・従業者数・製造品出荷額等は、表 1-2-11 に示すとおりです。従業者数、製造品出荷額ともに、平成 20 年から平成 22 年までは減少していましたが、平成 24 年には増加しています。

表 1-2-11 事業所数・従業者数・製造品出荷額等（従業員 4 人以上の事務所）

H20～H22は12月31日、H24は2月1日現在

	H 20			H 21			H 22			H 24		
	事業所数	従業者数 (人)	製造品 出荷額等 (万円)									
小売業	46	383	413,247	40	313	357,540	36	293	279,455	38	385	405,053

資料：H20～H22は工業統計調査、H24は経済センサス

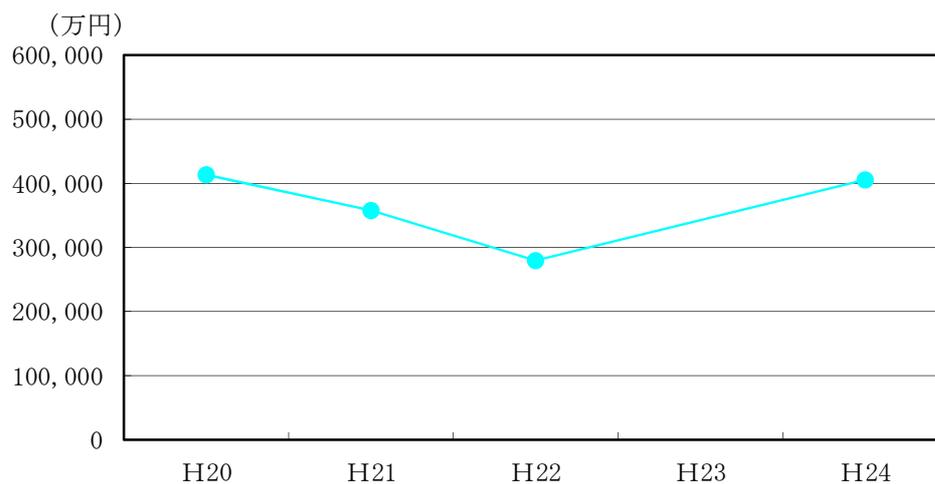


図 1-2-6 製造品出荷額等

(3) 商業

商店数、従業者数及び年間商品販売額は、表 1-2-12 に示すとおりです。商店数、従業者数及び年間販売額、ともに減少しています。

表 1-2-12 商店数・従業者数・年間商品販売額

H16・H19は6月1日現在、H24は2月1日現在

年	H 16			H 19			H 24		
	商店数	従業者数	年間商品販売額	商店数	従業者数	年間商品販売額	商店数	従業者数	年間商品販売額
	店	人	百万円	店	人	百万円	店	人	百万円
総数	804	3,879	75,291	706	3,494	66,381	518	2,422	45,115
卸売業	141	1,136	38,915	120	953	31,554	96	535	18,341
小売業	663	2,743	36,376	586	2,541	34,826	422	1,887	26,774

注) 端数処理の関係で、収支が一致しない場合があります。

資料：H16・H19は商業統計調査、H24は経済センサス

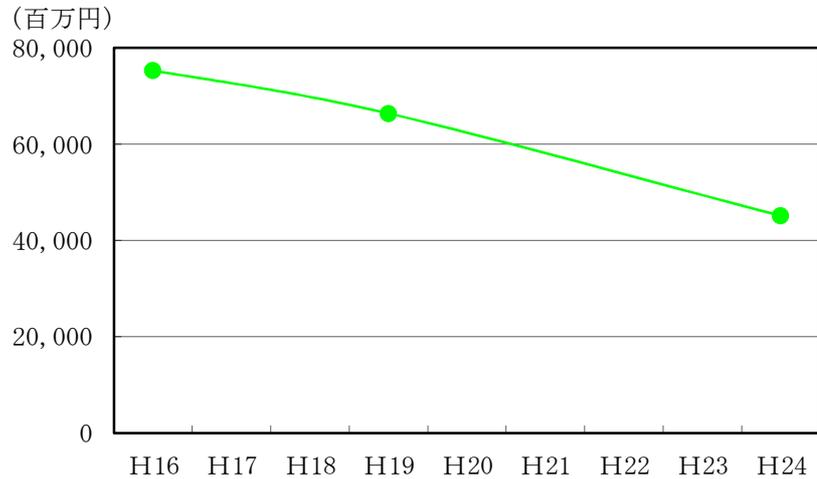


図 1-2-7 製造品出荷額等

3-3 地象土地利用

本市における地目別面積は、表 1-2-13 に示すとおりです。

本市は、急峻な山地に伴う山林が、約 5 割を占めています。

宅地は、市全体の約 2 割を占めており、住宅の他に、別荘、ホテル・旅館、寮・保養所があり、これは温泉観光都市としての熱海の大きな特色となっています。

表 1-2-13 地目別面積

年	総 数	各年1月1日現在(単位：㎡)						
		田	畑	宅 地	鉱 泉 地	山 林	原 野	雑 種 地
H 21	34,147,450	—	4,364,460	6,866,090	1,478	16,475,383	3,748,307	2,691,732
H 22	34,149,494	—	4,350,785	6,888,244	1,472	16,468,515	3,747,359	2,693,119
H 23	33,965,111	—	4,341,004	6,907,783	1,472	16,455,285	3,580,201	2,679,366
H 24	33,952,770	—	4,337,728	6,899,632	1,465	16,441,751	3,561,520	2,710,674
H 25	33,956,383	—	4,333,474	6,928,697	1,451	16,423,995	3,561,372	2,707,394

資料：税務課

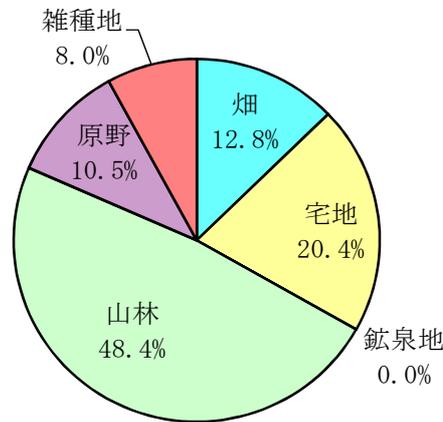


図 1-2-8 地目別面積 [平成 25 年]

表 1-2-14 計画地域・地区指定面積 [平成 25 年]

用途地域	用途地域							高度地区			4月1日現在(単位：ha)			
	商業地域	近隣商業地域	住居地域		住居専用地域			第1種	第2種	面 積	面 積	面 積	面 積	
面 積	1,201	84	9	182	298	534	17	900	800	100				
特別用途地域	特別用途地域		観光にぎわい商業地区		防火地域			景観地区		地区指定				
	第1種	第2種	第1種	第2種	防火	準防火	面 積	面 積	第1種	第2種	臨港地区			
面 積	480	6	474	117	13	104	172	21	151	13	5,171	3,951	1,220	7

資料：まちづくり課

3-4 交通

道路は、神奈川県方面より伊豆東海岸を走る国道 135 号があり、中心市街地から山間部に向けては、県道 11 号線（熱海函南線）が通じ、また、箱根方面へは、県道 20 号線（熱海箱根峠線）が通じており、観光や物流の主要道となっています。しかし、行楽シーズンを中心にこれらの主要道路が慢性的に渋滞することから、神奈川県から函南方面に抜ける広域的な道路として、「伊豆湘南道路」の整備促進を国・県へ要望しています。

鉄道は、JR 東海道本線及び新幹線が首都圏と関西方面を結び、また、熱海駅から JR 伊東線が伊東方面へと運行しています。JR 伊東線は、市内に 3 駅（来宮、伊豆多賀、網代）を有し、伊豆急行線と連携して、下田まで南北に伊豆半島を結んでいます。

3-5 観光

熱海は海・山・島といった自然、天与の温泉を財産として、日本有数の観光地として発展してきました。近年、観光を取り巻く環境が大きく変化し、どこの観光地も厳しい状況に立たされる中、熱海海上花火大会や熱海梅園梅まつりなどのイベントも好評で、砂浜として日本初となるサンビーチのライトアップ、起雲閣、旧日向別邸、池田満寿夫・佐藤陽子創作の家、池田満寿夫記念館といった文化施設の充実などから、現在でも観光が盛んなまちとなっています。

観光入込客数は、表 1-2-15 に示すとおりです。東日本大震災以降一時観光客数も落ち込みが見られましたが、現在では回復に向かっていきます。

表 1-2-15 観光入込客数

(単位：人)

年度	総数	宿泊施設利用人員			観光施設・イベント客数
		計	宿泊	休憩	
H 16	7,626,373	3,121,026	2,896,461	224,565	4,505,347
H 17	7,555,880	3,141,722	2,914,484	227,238	4,414,158
H 18	6,783,615	3,152,512	2,939,341	213,171	3,631,103
H 19	6,332,463	3,026,311	2,899,205	127,106	3,306,152
H 20	6,286,744	3,037,693	2,914,931	122,762	3,249,051
H 21	5,763,171	2,921,652	2,819,800	101,852	2,841,519
H 22	5,615,227	2,728,996	2,622,638	106,358	2,886,231
H 23	5,231,252	2,561,637	2,466,829	94,808	2,669,615
H 24	5,607,963	2,828,831	2,689,160	139,671	2,779,132
H 25	6,062,355	3,036,727	2,871,583	165,144	3,025,628

注) 宿泊施設利用人員は、休憩者も含む。

資料：観光経済課

第4節 関連計画

上位計画である『第四次熱海市総合計画』より関連箇所を抜粋し以下に示します。(施策等詳細は資料編参照)

4-1 第四次熱海市総合計画

- 策定年月 平成23年3月
- 将来都市像 住むひとが誇りを 訪れるひとに感動を 誰もが輝く楽園都市 熱海
- 計画期間 平成23年度(2011年度)～平成32年度(2020年度)
- 目標人口 40,000人(平成32年度)

4-2 第二次熱海市環境基本計画

- 策定年月 平成24年3月
- 環境像 恵まれた自然に誇りを持ち、循環を基調とした心あたたまる環境にやさしいまち 熱海
- ごみ関係数値目標

1人1日当たりのごみの排出量、平成22年(2010年)度を基準として、平成33年(2021年)度までに10%削減を目指す。

	平成22年度	平成33年度 目標値
1人1日当たりのごみ排出量	1,673g/人・日	1,506g/人・日

